小さな優しさから始まる平和

野々池中学校三年　藤井紗希

私たちは日々生活の中で、テレビのニュースやインターネットを通じて、世界各国で起きている戦争や紛争の映像を目にする機会が増えました。テレビやネットで流れるのは、破壊された街並みや、涙を流しながら避難する人々の姿です。それを見るたびに、私は言葉を失ってしまいます。生まれ育った国が違うだけで、なぜこれほど辛い思いをしなければならないのでしょうか。平和が当たり前のように生きる権利」のことです。これは特定の誰かだけのものではなく、世界中の全ての人に等しく与えられているものです。そしてこの権利は、一人一人がお互いに相手の立場を認

まず、人権とは「誰もが自分らしく、幸せ

人権について調べることにしました。

はいけない問題だと思い、私は今回、戦争と

かないこともあると思いますが、見過ごして

環境にいる私たちにとって、戦争の実感が湧

め合い、権利や自由を尊重し合うことで初めて成り立ちます。しかし、戦争は、この最も大切な人権を一瞬にして容赦なく奪ってしまいます。生きる権利、安全に暮らす権利、そして教育を受ける権利など、人間が人間らしく生きるためのすべてを破壊してしまう、最も悲惨な人権侵害だと言えます。

私は、小学校六年生の時に修学旅行で広島へ行き、そして今年中学校三年生の修学旅行では沖縄へ行きました。この二つの場所で、私は戦争の歴史について深く学ぶ機会がありました。広島では、平和記念資料館に行きました。原爆によって一瞬でボロボロになったたくさんの衣服や、焼け焦げたお弁当などが展示されていました。特に私の心に残っているのは、それらの遺品の多くが、私と同じくらいの子どもたちのものだったということです。また、沖縄では地上戦の激しさを学びました。「ガマ」と呼ばれる自然の洞窟の中に入りました。中に入って電気を消すと、光も一つも届かな

くなり、真っ暗で言葉が出ないほどとても怖かったことをよく覚えています。二つの場所での学習は、事前学習をしただけでは分からなかった戦争の本当の恐ろしさと、人間の命や大切な権利が奪われる悲惨さを私に実感させてくれました。これほど悲しい歴史がありながら、なぜ人間は争いをやめることができないのだろうかと、私は不思議に思いました。

そこで戦争が起こる原因を調べてみると、宗教や文化の違い、資源や土地の奪い合いなど、いろいろな理由があることが分かりました。ですが、その一番の原因は、自分たちの利益や意見だけを押し通そうとし、相手の立場や考え方を理解しようとしないからではないでしょうか。お互いの違いを認め合えない小さなすれ違いが積み重なり、やがて大きな争いへと発展してしまうのだと気づきました。

これからは、戦争をなくし、みんなの人権が守られる世界にするために、私たち中学生が始められることは何だろうか。私たちには、

武器を持って戦争を止めることはできません。

しかし、身近な争いをなくすことはできるはずです。例えば、「相手の言葉を最後までしっかり聞いて、優しい言葉で返す」というこ

とです。自分の意見を押し通すのではなく、「相手がどう思っているのか」を最後まで聞いてみることが大切だと思います。また、自分とは違う意見や個性を持っている人がいても、否定するのではなく「そういう考え方もあるんだな」と受け入れることも大切です。それが平和な社会を作るための第一歩になると、私は信じています。みんなが自分らしく笑顔で生きられる未来にするために、まず私は、周りの人に優しく言葉をかけたり、世界の出来事に関心を持って自分から調べたりすることから始めていきたいです。